

【研究ノート】

## 複合形容詞の分類について

中 屋 晃

## 研究ノート

## 複合形容詞の分類について

中 屋 晃

Akira NAKAYA

## 目次

1. はじめに
2. 複合語の分類について
3. 複合形容詞の型について
4. 3語以上からなる複合形容詞
5. 複合形容詞の用例一覧

## [Abstract]

## Classification of English Compound Adjectives

This paper examines how English compound adjectives can be classified based on the relationships between the head and the other elements that form a compound. Those relationships can be rather ambiguous and obscure with no verbal elements involved. The types of compounds dealt with here are mostly compound adjectives followed by nouns in adjective-noun combination patterns. The first classification introduced here is based on Bisetto and Scalise (2005), which focuses on semantic categories of compounds, and the second one on Bauer and Huddleston (2002), which focuses on combinations of different parts of speech, specifically on N+A and A+A categories. Examples of compound adjectives are given for clarification. Additional examples, mostly cited from recent issues of *TIME* magazine and *The Economist*, are listed in the last section of this paper.

## 1. はじめに

初級レベルの英語学習者に英語で質問すると、返答が単語1語ないし2語程度にとどまることが多く、残念ながら十分メッセージが伝えきれないで終わってしまう。英単語の中では名詞が一番多いことを踏まえ、名詞を修飾する単語、即ち形容詞を付けることを練習することで内容が明らかになることが期待できる。発話の進化レベルで行けば、「主語(名詞) + 述語(動詞)」の返答段階に入る前に「形容詞 + 名詞」の名詞句による返答練習が十分になされることが必要であろう。この名詞句に関連して第1要素と第2要素の間に修飾語を入れることができないとされるのが複合語の条件だとすれば、複数の単語から構成される複合語を使うことは短い発話のなかに特定の情報を効果的に詰め込むことになる。英語で話すことは何らかのメッセージを伝えることなので、単語と熟語を覚えると同時にできるだけ多くの複合語に触れることも有益であろう。

---

キーワード：複合語, 複合形容詞, 紐状複合語

Key words: Compounds, Compound Adjectives, String-compounds

複合語について Jespersen (VI 194: 134) は、2 語あるいはそれ以上の数の語が結びついて 1 つの単位として機能するものと定義している。ここで言う語とは、語形を変える接頭辞、接尾辞、屈折形などを除いた語基 (base) と考えるべきものであろう。綴りとしては語基同士が合わさって 1 語になったり、ハイフンで結ばれたり、2 語に分かれたままということもある。独語では複合語を 1 語として綴るので認識しやすいが、英語では単語が連なる場合、複合語と語句の見分けが難しい。Lieber (2016: 49) は語基が 3 つ以上連なる極めて長い複合語の例として、paper towel dispenser factory building committee report (紙タオル取り出し機製造工場建築委員会報告書) を挙げているが、幾つかの複合形容詞が連なって全体で 1 つの複合名詞を形成していると分析できる。従って、複合語を分類する場合、語基配列のどこに焦点を当てるかが重要となる。

複合語の中には複合名詞となるものが極めて多いが、複合形容詞となるものも多く見られる。複合名詞で圧倒的に多いのは「名詞+名詞」型である。一方、複合形容詞で多いタイプは形容詞化した過去分詞や現在分詞を伴う形態のものである。本論では 2 つないしはそれ以上の語基が結びついて品詞としては形容詞の働きをする複合形容詞 (compound adjectives) を主に取り扱うことにする。

## 2. 複合語の分類について

複合語を構成する要素間の意味論的文法関係に注目して複合語を分類したのが Bisetto and Scalise (2005) である。この分類によれば、複合語は従属複合語 (subordinate compounds)、限定複合語 (attributive compounds)、等位複合語 (coordinate compounds) に上位区分でき、さらに内心的 (endocentric) であるか外心的 (exocentric) であるかで下位区分している。

従属的な第 1 要素が第 2 要素に相当する主要部の意味を補完する関係にあるのが subordinate compound である。この関係は一方が他方の変数となっていると解釈でき、具体的には第 1 要素が動詞由来名詞の語基 (base) を形成する動詞の目的語と見なせる関係が成立するのが従属複合語である。例えば mystery writer であれば、mystery が writer の語基 write の目的語となるので従属複合語となる。cost containment の場合は、cost が containment の語基 contain (抑制する) の目的語となる関係が成立する。apron string は「エプロンを結ぶもの」という意味から apron が動詞 string の目的語となる関係があり従属複合語であるが、意味という点では “string of an apron” (エプロンのひも)、“string resting on an apron” (エプロンに付いているひも)、“string threaded into an apron” (エプロンに縫い付けられたひも) などの解釈が可能であり、多義的である。

主要部をその他の要素が限定的に修飾するのが attributive compound である。例えば blue cheese であれば、修飾語となる blue は主要部となる cheese の特性を表す。snail mail の場合は名詞 snail が比喩的な意味を持って形容詞として働き、主要部の mail を修飾する限定複合語となる。

構成要素間が and で結ばれるような関係にあるのが coordinate compound である。ただし、2 つの要素が対等であっても主要部として機能するのはどちらか一方のみである。等位複合語の例としては blue-green, bittersweet, producer-director, learner-driver などが挙げられる。

これらの複合語について、指示対象物が全体と主要部で同じになる場合は内心的 (endocentric) となり、複合語全体の明示的な意味が主要部が示す本来の意味とは異なる場合は外心的 (exocentric) となる。複合語が内心構造であればその主要部と同じ機能を果たすので意味の把

握が容易である一方、複合語が外心構造となれば機能上その主要部とは異なるので間接的に伝えられている特殊な意味が何なのか分かり難くなる。英語では複合語の大部分が内心的であり、外心的な複合語は多くない。従属複合語で外心的なものとしては pickpocket, cut-throat, scarecrow などが、限定複合語で外心的なものとしては air head, bird brain, loudmouth などが、等位複合語で外心的なものとしては doctor-patient, mother-child, north-east などが挙げられる。一般的にロマンス諸語に比べるとゲルマン諸語には外心的な複合語は少ないとされている。また、Bauer (1983: 57-58) のように外心的複合語を認めないという考えもある。

### 3. 複合形容詞の型について

複合語については意味関係で分類するよりも品詞で分類する方が分かり易い。Lieber (2016: 52) は、複合語の構成要素の組み合わせで16パターンを挙げている。それらは複合名詞で N+N (e.g. file cabinet), A+N (e.g. fast food), V+N (e.g. think tank), P+N (e.g. backseat), V+P (e.g. breakdown) の5パターン、複合形容詞で N+A (e.g. machine-readable), A+A (e.g. icy cold), V+A (e.g. go-slow), A+P (e.g. tuned-in), P+A (e.g. inbuilt) の5パターン、複合動詞で N+V (e.g. hand-wash), V+V (e.g. blow-dry), A+V (e.g. slow dance), P+V (e.g. downgrade) の4パターン、複合副詞で N+P (e.g. year-in) の1パターン、複合前置詞で P+P (e.g. into) の1パターンである。なお、ここで N は名詞、A は形容詞、V は動詞、P は前置詞であることを示す。複合語の数としては複合名詞が一番多く、これに次ぐのが複合形容詞である。

2つないしはそれ以上の語基が結びついて機能的には形容詞の働きをするものが複合形容詞だ。本論では複合形容詞の N+A と A+A の型に絞って論じる。Bauer & Huddleston (2002: 1656-60) は特殊なものを別扱いにして複合形容詞を形容詞中心のものと動詞中心のものに大きく分けて分類している。

形容詞中心の複合形容詞は N+A (e.g. foot-loose, crystal-clear, week-long, oil-rich, self-confident) と A+A (e.g. deaf-mute, pale-green, red-hot) の2つの型に分けられている。出現頻度からすれば N+A 型の方が A+A 型よりもはるかに優勢であるという。shoulder-high や year-long など測定値や期間を示すものや、heel-averse, crisis-prone, inflation-proof, smoke-free など第1要素の名詞が主要部を補完するタイプは生産的である。後者の例はそれぞれ統語的に “averse to heels”, “prone to crises”, “proof against inflation”, “not containing smoke” に相当する表現となり、動詞由来の形容詞を使って統語構造を示す動詞中心の複合語に類似した特徴を持っている。

動詞中心の複合形容詞は (1) 主要部が現在分詞となるもので N+V-ing (e.g. awe-inspiring, fact-finding, law-abiding) と A/Adv+V-ing (e.g. easy-going, hard-working, fast-growing) の2つの型に、(2) 主要部が過去分詞の受動用法となるもので N+V-en (e.g. safety-tested, home-made, moth-eaten) と A/Adv+V-en (e.g. clean-shaven, long-lost, ill-fated) の2つの型に、(3) 主要部が過去分詞の能動用法となる A/Adv+V-en (e.g. plain-spoken, short-run, well-travelled) の型と (4) 主要部に動詞由来の形容詞が使われる N+deverbal A (e.g. drug-dependent, germ-resistant, tax-deductible) の型に分類されている。ここの Adv は副詞のこと、V-ing は現在分詞のこと、V-en は過去分詞のこと、deverbal A は dependent や resistant のような動詞由来の形容詞のことである。

上記 (1) の2つのタイプを比較すると N+V-ing 型の方が A/Adv+V-ing 型よりも生産的で

あるという。後者のタイプには形容詞を叙述的補語として取る grow, look, seem, taste などの動詞を主要部に使ったものとか, easy-going や hard-working のようなかなり語彙化されたものがある。次に (2) では N+V-en 型が非常に生産的であると言える。これらの複合語は統語的に受動態の表現に書き換えられる。例に示された複合語はそれぞれ “tested for safety”, “made at home”, “eaten by moths” に相当する意味となる。一方, A/Adv+V-en 型の生産性は低い。(3) のタイプの複合語はすべて語彙化されていて, 数としては少ないという。最後に (4) では第 1 要素の名詞が主要部の変数となる関係が成立し, ここの例に示された複合語はそれぞれ “depend on drugs”, “regist germs”, “can deduct tax” と書き換える統語論的表現に対応している。大石 (1988: 128-29) は動詞由来複合語の複合形容詞を接尾辞に注目して, -ent (e.g. water-repellent), -ive (e.g. heat-sensitive), -able (e.g. hand washable, radar detectable, machine-readable), -ory (e.g. disease inhibitory) と整理している。

Bauer & Huddleston (2002: 1660) が特殊なものとして別扱いにしている複合形容詞の中には生産的なものもある。それは数量表現となるもので, 例として three-inch, five-mile, two-year が挙げられている。同類のものとしては \$41-billion-in-sales, 1-click, once-in-a-century, three-a-day, three-judge などが筆者の収集した用例の中にはある。

#### 4. 3 語以上からなる複合形容詞

雑誌や小説を読んでいると 3 語以上からなる複合形容詞が頻繁に出現する。簡潔に表現するには便利な道具であるが, 動詞要素のない名詞や形容詞を並べるだけでは意味が曖昧となるので注意が必要だ。しっかりとした場面や文脈の中で使われてその効果を発揮するのが複合語だと言えよう。独語では長めの複合語がよく使われるが, 英語では文語的とされ会話ではあまり使われない (Jespersen II 1914: 341 参照)。

Jespersen (VI 1942: 154) は, 複合語の構成要素自体が複合語をなしているものを紐状複合語 (string-compound) という用語で呼んで例を幾つか挙げている。その中には winter weather skin troubles (冬の季節の肌荒れ), breach-of-promise lady (婚約不履行の女性), cat-and-dog life (夫婦げんかの絶えない生活), boy and girl days (幼い日々) などのように 3 語以上からなる複合形容詞が含まれている。only three-pence a week pocket-money (たった週 3 ペンスの小遣い銭), ten miles a day walk (1 日 10 マイルの散歩) のようにその場の状況に応じて臨時的にフレーズが作れるので生産的であるとも言える。

さらに Jespersen (II 1914: 341) では, 前位付加語 (pre-adjunct) の形容詞群として, *man-of-war* man (軍艦の乗組員), *house-to-house* call (戸別訪問), *behind-the-times* public school (時代遅れのパブリックスクール) などを挙げている。また, 引用句付加語 (quotation adjunct) の項目では, 引用句に動詞を含まないものとして *every-man-for-himself* feeling (皆自分のためという気持ち) を, 文が引用句となるものとして *in a won't-you-pay-up* manner (全部支払っという様子) を例示している。これらも広義の複合形容詞の例に含むことができよう。3 語以上からなる複合形容詞は表現の幅を広げる手段として有効であるので, これらの用例は注目に値する。

## 5. 複合形容詞の用例一覧

複合形容詞が名詞に連なる用例を収集したので、その一覧を示す。左側に複合形容詞、中央に主要部となる名詞、右側に意味を表記した。出典は紙面の都合で省略するが、多くは英文雑誌 *TIME* や経済誌 *The Economist* からのものである。

---

“aliens are among us”	story line	我々の中にエイリアンがいるという話の筋
“direct-to-mouth”	drone-delivery service	お口へ直行のドローンを使った配達サービス
“go fast and break things”	style of innovation	速く進行し破壊する革新スタイル
“made in China”	label	中国製のラベル
“one size fits all”	scenario	どんな状況にも合うシナリオ
“society is against me”	excuse	社会は自分を差別するという言い訳
“Take Your Child to Work”	Day	子供による親の職場見学日
“too good to be true”	scam	あまりにうまい話でウソっぽい詐欺
“whole of government”	approach	政府一体という取り組み手法
\$41-billion-in-sales	PC division	販売高410億ドルのパソコン部門
1-click	ordering	クリック1回での発注
above-industry-average	pay	業界平均を上回る給与
accountability-based	approach	説明責任に基づくやり方
all-in-one	guide	すべて一つにまとめたガイドブック
already calorie-poor	North Korea	すでにカロリー不足の北朝鮮
always-on	broadband	常時接続の広帯域通信網
American-backed	South Korea	アメリカが支援する韓国
American-based	production	米国を拠点にした生産
American-led	response	アメリカ主導の対応
American-led	trade deal	アメリカ主導の貿易協定
American-led	order	アメリカ主導の秩序
Americans with Disabilities	Act	米国障害者法
artificial-intelligence	research firm	人工知能研究企業
as yet untapped	potential	手つかずの可能性
balance-of-payments	statistics	国際収支の統計表
Black Lives Matter	activist	黒人の命を守れ運動推進者
Black Lives Matter	movement	黒人の命を守れ運動
blue-chip	firm	優良企業
bow-tied	waiter	蝶ネクタイをしたウェイター
boxed-for-shipment	exhibition	発送のため箱詰めされた展示品
boy-meets-girl	love story	月並みな恋愛物語
breakneck	pace	異常な速さのペース
break-room	refrigerator	休憩室の冷蔵庫
brick-and-mortar	store	実店舗



broad-based	economic upswing	広範囲にわたる景気上昇
businessman turned	politician	実業家上がりの政治家
Calvinist-influenced	Christianity	カルヴィン主義の影響を受けたキリスト教
carbon-dioxide	emissions	二酸化炭素の排出量
carrot-and-stick	approach	飴と鞭の対応
cat-and-dog	life	夫婦げんかの絶えない生活
cat-and-mouse	game	追いつ追われつの過酷な試合
center-right	coalition	中道右派連合
chapter-by-chapter	list of target words	章ごとの目標単語一覧
cherry-tree-lined	street	桜並木通り
children's-TV	rating	子ども向けテレビ番組の視聴率
Chinese-made	fantasy	中国で制作された幻想的な作品
city-dwelling	couple	都会に住むカップル
climate-change	policy	気候変動対策
coal-fired	power plant	石炭火力発電所
coal-fired	plant capacity	石炭火力発電容量
cock-and-bull	story	作り話
combat boots-on-the-ground	operation	地上戦を展開する戦闘作戦
come-from-behind	victory	逆転勝ち
community-supported	agriculture	地域社会が支援する農業
company-wide	email	全社員宛メール
computer-aided	design	コンピュータ支援のデザイン
computer-security	expert	コンピューターセキュリティー専門家
consumption-driven	economy	消費牽引型の経済
corridor-cum-office	space	廊下を兼ねた事務室空間
counter-terrorism	measures	テロ対策
crisis-prone	country	危機に陥りやすい国
criterion-referenced	test	目標標準型試験
crowd-sourced	review	大衆を発信源とする批評
crushed-dog-in-the-highway	look	幹線道路で轢かれた犬のような顔つき
cutting-edge	research	最先端研究
data-based	diagnostics	データに基づく診断法
data-driven	approach	データに導かれた手法
day-to-day	life	日常生活
dead-end	job	将来性のない仕事
decision-making	ability	決定能力
deficit-covering	bonds	赤字国債
diet-and-exercise	group	ダイエットと運動を取り入れたグループ
dispute-settlement	apparatus	紛争解決機関
DO NOT DISTURB	sign	就寝中のサイン

複合形容詞の分類について

DO NOT ENTER	sign	進入禁止の標識
dog-eat-dog	world	食うか食われるかの世界
door-to-door	service	宅配サービス
dot-com	people	インターネット関連の人々
Earth-imaging	satellite	地球を映し出す人工衛星
easy-to-crack	diplomatic codes	解読しやすい外交暗号
easy-to-read	chart	見やすい図表
easy-to-understand	format	分かり易い形式
economic-sentiment	index	景況感指数
ever-better	laser	これまで以上に優れたレーザー
ever-smaller	clock	これまでになく小さい時計
eyebrow-raising	meeting	いぶかしい会合
eye-catching	art	人目を引くイラスト
eye-catching	stunt	目を奪う妙技
fast-forward	button	早送りボタン
fast-growing	market	急成長中の市場
financial-management	skills	資金管理技術
financial-services	firm	金融サービス会社
fixed-price	contract	固定価格契約
flower-decked	lock	花におおわれた水門
foolproof	state	間違えようのない状態
full-fledged	attorney	本格的な弁護士
full-fledged	recovery	本格的な回復
full-throated	use	高らかな利用
gator-filled	moat	ワニがうようよする濠
gender-neutral	term	性差別のない用語
gesture-controlled	device	身振りで制御する装置
get-to-know-you	meeting	顔合わせ会合
gold standard	system	金本位制度
good-for-nothing	nephew	ろくでなしの甥
go-to	source	情報源
government official-turned	entrepreneur	政府の役人から身を転じた起業家
hands-on	activity	実践的な活動
hand-to-mouth	life	その日暮らしの生活
hard-core	shut-in	筋金入りの引きこもり
hard-right	party	極右政党
hard-to-treat	medical conditions	治療困難な病状
health-care	reform	医療改革
heart-to-heart	talk	腹を割っての話
heat-trapping	carbon dioxide	蓄熱二酸化炭素



heavy-handed	response	威圧的な対応
heel-averse	woman	ハイヒール嫌いの女性
hide-under-the-pillow	fears	枕の下に隠れたくなるような恐怖感
higher-than-average	productivity	平均以上の生産性
highest-grossing	movie	最高の総収益を上げた映画
high-interest	topic	興味を喚起するトピック
high-interest	loan	高金利ローン
high-volume, low-margin	business	大量販売, 低利益事業
highway-robbery	price	法外な値段
his "Let it be an arms race"	utterance	彼の軍拡でよしとする発言
hit-and-run	driver	ひき逃げ運転手
hole-in-the-wall	place	狭くむさ苦しい所
Hollywood-turned-Beijing	transplant	ハリウッド上がりの北京移住者
home-grown	productions	国内で育った作品
human-influenced	climate change	人間の影響による気候変動
ill-founded	fear	根拠のない恐怖
independent-minded	people	独立志向の強い人々
in-person	interview	直接本人との面接
internet-based	alternative reality	インターネットに基づく代替現実
Internet-comfortable	customer	インターネットを気楽に使える顧客
island-building	campaign	島を増設する軍事行動
job-creating	private enterprise	仕事を生む民間企業
knee-jerk	social-media climate	過剰に反応するソーシャルメディア風潮
knows-more-than-one's-telling	look	語っている以上に知っているという顔つき
laboratory-based	affair	実験室ベースの事柄
laboratory-grown	"synthetic" diamond	実験室で成長した合成ダイヤモンド
law-abiding	people	法を守る人々
left-leaning	party	左傾の政党
left-of-center	tenet	中道左派の信条
let-fate-take-its-course	approach	運命に任せるやり方
live-streaming	industry	ライブ動画配信産業
live-streaming	app	ライブ動画配信応用ソフト
long-awaited	upswing	長く待ち望んでいた回復基調
long-dreamed-of	independence	長いこと夢に見た独立
long-past-midnight	page-turner	真夜中を過ぎててもずっと読みたくなる本
long-run	solution	長期的解決策
low-cost	renewables	低コストの再生エネルギー
lowest-level	software	最下位層ソフトウェア
low-marginal-cost	renewables	低限界費用の再生エネルギー
low-skilled	service industries	熟練を要しないサービス産業

複合形容詞の分類について

machine-learning	program	機械学習プログラム
made-for-TV	rally	テレビ向け集会
made-to-order	food	注文を受けて調理する食べ物
maize and sugar-based	ethanol	トウモロコシとサトウキビを原料とするエタノール
man-made	climate change	人間が作り出した気候変動
man-made	structure	人間が作った建造物
manufacturing-related	services	製造業に関連したサービス
members-only	club	会員限定クラブ
Mexico City-born	cinematographer	メキシコシティー生まれの映画カメラマン
mid- to latter	part	中期から後期にかけての期間
million-man	march	百万人のデモ行進
mineral-laden	water	鉱物を含む水
mist-laden	forest	もやがかかった森
most talked-about	new device	最も話題となった新型装置
Muslim-majority	country	イスラム教徒が過半数を占める国
must-have	airplane	絶対に手に入れたい飛行機
must-have	doll	必須の人形
never-before-seen	photo	未公開写真
never-ending	inquiry	終わることのない取り調べ
norm-referenced	test	集団準拠型試験
oft-cited	estimate	しばしば取り上げられる推定値
often stated	policy	しばしば表明された政策
once-in-a-century	superstorm	世紀に1度の超暴風雨
once-in-a-lifetime	opportunity	一生に1度の機会
once-in-one's-lifetime	chance	生涯一度のチャンス
on-the-go	munching	動き回りながらの食事
on-the-job	training	職場研修
opposition-held	neighborhoods	反対勢力が占拠する地区
out-of-date	system	時代遅れのシステム
out-of-the-way	place	へんぴな場所
out-of-the-way	town	辺鄙な町
parcel-delivery	company	宅配業者
part-of-speech	label	品詞の標識
peer-to-peer	ride-sharing	個人同士の相乗り
personal accident	insurance	個人傷害保険
personal-health	record	個人健康記録
physician-driven	uses of Botox	医師主導のボトックス使用
pilot-turned	demagogue	パイロットあがりの扇動家
planet-straddling	model	地球を股に掛けたビジネスモデル
please-take-me-somewhere	eyes	私をどこかへ連れてってと訴える目

point-of-sale	printer	店舗販売時点情報管理プリンター
potholed	highway	穴ぼこの幹線道路
poverty-stricken	area	貧困にみまわれた地域
power-generating	capacity	発電容量
power-plant	emissions	発電所からの排出量
predictive-diagnostics	system	予測診断法システム
productivity-boosting	business investment	生産性を高める事業投資
public-facing	document	一般公開向け文書
put-on	smile	愛想笑い
ready-to-use	phrases	すぐ使えるフレーズ
ready-when-you-want-it	staple	欲しいときに準備出来る必需食料品
rebel-held	city	反乱軍が占拠する都市
reds-under-the-bed	hysteria	共産党員潜入警戒ヒステリー
renewable-rich	parts of America	アメリカで再生エネルギーが豊富な地域
Republican-controlled	Congress	共和党が支配する議会
ride-hailing	service	乗車呼び出しサービス
ring-shaped	main building	輪型の本館
rules-based	trading order	規則に則った貿易秩序
Russian-backed	separatists	ロシアの支援を受けた分離独立派
Russian-controlled	autonomous territory	ロシアに管理された自治領
security-research	firm	セキュリティー調査会社
self-driving	car	自動運転自動車
self-imposed	shut-in	自主引きこもり
seven-decade-long	defender	70年間に及ぶ擁護者
shoot-from-the-hip	kind of guy	衝動的に行動するような男
short-notice	sitter	直前の依頼で来てくれるベビーシッター
short-run	analysis	短期分析
show-off	vandalism	見せびらかしの破壊行為
similar-looking	structure	似た外観の構造物
small-time	live-streamer	三流のライブ動画出演者
soft-spoken	artist	穏やかな話し方をするアーティスト
son-of-one's-wife's-cousin	problem	妻のいとこの息子問題
soon-to-be-forgotten	leftover	じきに忘れ去られる残り物
stand-alone	series	単独シリーズ
standing-room-only	crowd	立ち見席のみの観客
stand-up	comedy	ピン芸
State of the State	speech	州議会一般教書演説
state-controlled	monopoly	国家統制された独占
state-funded	universal schooling	国費で賄われる普通教育
state-of-the-art	technology	最先端技術

複合形容詞の分類について

state-owned	company	国有企業
state-owned	firm	国有企業
state-run	broadcast	国営放送
state-sponsored	murder	国家の支援を受けた殺害
step-by-step	process	段階的なプロセス
stick-in-the-mud	world of corporate boards	旧態依然たる企業役員会の体質
stronger-than-expected	economic statistics	予想よりも良好な経済統計値
Supreme Court-quality	lawyer	最高裁級の弁護士
swamp-draining	savior	難題を解決してくれる救世主
take-it-or-leave-it	vote	受けるか否かを決める投票
the greatest my fellow-American	speech	米国民に呼びかける最高の演説
the most appealing-looking	city	最も魅力的に見える都市
the most talked-about	town	最も話題となる町
three-a-day	man	一日三食摂る人
three-judge	panel	3人の判事からなる陪審団
time-limited	tax cut	期間限定の減税
time-pressed	Russians	時間に追われたロシア人
tired-looking	woman	疲れた様子の女性
top-grossing	movie director	最高の総収益を上げる映画監督
top-notch	system	最高のシステム
top-of-the-line	brand	最上級ブランド品
touch-screen	self-service kiosk	タッチスクリーンを用いたセルフサービス小売店
tough-guy	persona	強靱な男という人物像
tough-talk	tarnishing	辛辣な悪口
Trump-branded	property	トランプのブランド名付き屋敷
U.S.-led	global order	米国主導の国際秩序
underwhelming	crowds	がっかりさせる数の群衆
unlived-in	house	人の住んでいない家
un-star-like	superstar	スターらしからぬスーパースター
up-to-the-minute	news	最新のニュース
us-against-them	politics	彼ら対我々という駆け引き
us-against-them	view	彼ら対我々という見方
voice-activated	assistant	音声作動補助
Washington, DC-based	think-tank	ワシントンに本拠を置くシンクタンク
well thought out	question	よく考えられた質問
well-served	market	十分に整った市場
well-worn	table	使い古したテーブル
we're-all-in-this-together	spirit	皆一緒にこのことに係わっているという精神
white-goods	firm	白物家電企業
winner-takes-all	system	勝者独り勝ちシステム

winner-takes-all	politics	勝者ひとり占めの駆け引き
work-from-home	arrangements	在宅の勤務形態
working-class	whites	労働者階級の白人
work-life	balance	仕事と生活のバランス
world-is-ending	feeling	世界の終わりだという気持ち
worried-looking	teachers	心配な様子の教師たち
worst-affected	district	最悪の影響を受けた地域
worst-kept	secret	全く守られない秘密
would-be	autocrat	まやかしの専制君主
<i>X-Files-slash-Close Encounters of the Third Kind</i>		
	alien	「Xファイル」または「未知との遭遇」の異星人
year-on-year	rise	前年同期比での増加
yet-to-be-published	study	未発表の研究論文
YouTube-like	video-sharing business	ユーチューブのような動画共有企業

-----  
以上

### 参考文献

- Akimoto, M. (秋元実治) (1988). 「形態論」. in Matsunami, T. 『英文法』 (英語学コース 第 2 卷). 大修館書店.
- Araki, K. and M. Yasui (荒木一雄・安井稔 [編]) (1992). 『現代英文法辞典』. 三省堂.
- Bauer, L. (1983). *English Word-formation*. Cambridge University Press.
- Bauer, L. and R. Huddleston (2002). 'Lexical Word-formation', in Huddleston, R. and G. F. Pullum. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge University Press. 1656-60.
- Bisetto, A. and S. Scalise (2005). 'The classification of compounds', *Lingue e Linguaggio* 4 (2): 319-32.
- Bloomfield, L. (1933). *Language*. New York: Holt.
- Carstairs-McCarthy, A. (2002). *An Introduction to English Morphology*. Edinburgh University Press.
- Don, J. (2014). *Morphological Theory and the Morphology of English*. Edinburgh University Press.
- Downing, A. and P. Locke (2006). *English Grammar: A University Course*. 2nd ededition. Routledge.
- Fernandez-Dominguez, J. (2009). *Productivity in English Word-formation*. Bern: Peter Lang.
- Hamawand, Z. (2011). *Morphology in English: Word Formation in Cognitive Grammar*. Continuum International Publishing Group.
- Ishibashi, K. (石橋幸太郎 [他編]) (1973). 『現代英語学辞典』. 成美堂.
- Jespersen, O. (II 1914). *A Modern English Grammar on Historical Principles*. Part II. George Allen & Unwin.
- Jespersen, O. (VI 1942). *A Modern English Grammar on Historical Principles*. Part VI. George Allen & Unwin.
- Katamba, Francis (1993). *Morphology*. Macmillan Press.
- Katamba, Francis (2005). *English Words*. 2nd edition. Routledge.
- Lieber, Rochelle (2016). *Introducing Morphology*. 2nd edition. Cambridge University Press.
- Namiki, T. (竝木崇康) (1985). 『語形成』 (新英文法選書 第 2 卷). 大修館書店.
- Nishibu, M. (西部真由美) (2015). 「複合語の分析」. in Fukaya, T. and N. Takizawa (eds.) 『コーパスと英文法・語法』. ひつじ書房.
- Oishi, T. (大石強) (1988). 『形態論』 (現代の英語学シリーズ 4). 開拓社.
- Otsuka, T. (大塚高信 [編]) (1959). 『新英文法辞典』. 三省堂.

- Plag, I. (2003). *Word-Formation in English*. Cambridge University Press.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1972). *A Grammar of Contemporary English*. Longman.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- Scalise, S. and A. Bisetto (2009). 'The Classification of Compounds', in Lieber, R. and P. Stekauer (eds.) *The Oxford Handbook of Compounding*. Oxford University Press, 34-53.
- Selkirk, E. O. (1982). 'The Syntax of Words', *Linguistic Inquiry Monograph #7*. MIT Press.
- Sweet, H. (1892-98). *A New English Grammar: Logical and Historical*. 2 vols. Oxford University Press.
- Terasawa, Y. (寺澤芳雄 [編]) (2002). 『英語学要語辞典』. 研究社.
- Umeda, O. (梅田修) (1983). 『英語の語彙事典』. 大修館書店.
- Yasui, M. (安井稔 [編]) (1996). 『コンサイス英文法辞典』. 三省堂.
- Yonekura, H. (米倉綽) (2015). 『歴史的にみた英語の語形成』. 開拓社.